

地域の誇りを次世代へ

問 苗木事務所 (☎66-1301)

苗木城築城500年記念事業実行委員会では、事業の一環として、市内学習を行う学年向けの学習メニューと市内小学校の全児童を対象とした「きみが城主だ 苗木城を描こう」を企画！

出前講座と現地学習を行い、もし自分が殿さまだったら、どんなお城にするのか、思い思いの苗木城を描いてもらいます。児童たちの作品は、選定・審査の後、表彰された作品は市内の各会場で展示します。

詳細が決まり次第、市ホームページなどでお知らせします。



出前講座と現地学習
を受ける落合小学校
3年生の児童たち



国指定史跡 苗木城跡

問 文化課 (☎内線 4315)

苗木城跡は、木曽川沿いの城山の山頂に築かれた山城です。天然の巨岩を巧みに利用した独自の石垣や、柱をのせるために岩を削って建てられた天守跡など、他に類を見ない城郭の美しさが魅力です。天守跡には展望台が設置されており、恵那山や木曽川を一望できる360度の大パノラマは息をのむ絶景です。

2017年4月6日(城の日)には、(公財)日本城郭協会の「続日本100名城」に選ばれました。

特集

歴史を紡ぐ

今年、築城500年を迎えた苗木城。今なお残るその遺構は、貴重な歴史資源で、国指定史跡にも指定されています。また、関西のエネルギーを支えている落合ダム・発電所は完成から100年を迎えました。

今回の特集では、それぞれの歴史や価値を振り返るとともに、未来へつなぐ人たちの思いや活動に迫ります。

もう一度、
行きたい城が
そこにある。



11 住み続けられるまちづくりを

苗木城跡

江戸時代になると山城の御殿は山麓に移りますが、苗木城では明治に至るまでこの丸を御殿としていました。これも全国で苗木城だけの特徴です。

残された石垣は江戸時代を通じて何度も修理されており、さまざまな石材の加工や積み方を見ることができそうです。そうした違いを見て歩くのも楽しいと思います。

建物自体は明治に解体されましたが、石垣は江戸時代の本物が残されています。その見事な石垣を市の誇りとして、未来に伝えていただきたいと思います。

その特徴は何と言っても自然の巨大な岩盤を利用しながら巧みに石垣を組み合わせて築かれたことです。本丸には天守も造営されましたが自然の岩盤を天守台としています。

現在でも岩盤には柱を据えるホゾ穴をくり抜いた痕跡を見ることができそうです。こうした構造の天守台は全国で苗木城だけです。

城跡西方の足軽長屋跡から見た苗木城跡の景観には誰しも感嘆の声をあげることでしょう。高森山の岩盤は天を衝き、累々と石垣が築かれている姿は天空の城をほうふつさせます。

今年は1526(大永6)年に高森城が築かれて500年となります。なお、現在のような石垣の城となるのは1600(慶長5)年の関ヶ原合戦後に苗木領を安堵された遠山友政によるものです。



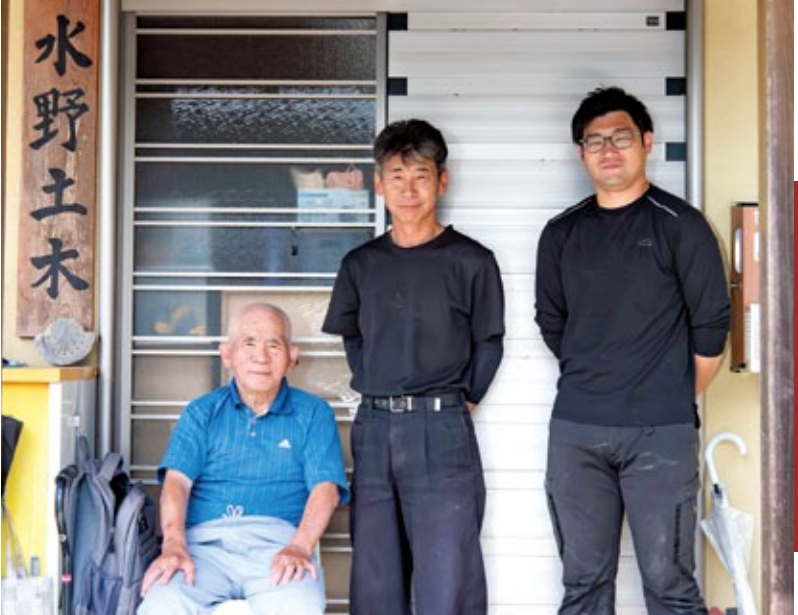
滋賀県立大学名誉教授
苗木城跡整備委員会委員長
中井 均氏

積み上げたもの

interview

文化財石垣保存技術協議会 監事
水野 土木 3代目
水野 賀道 さん (中央)
〔2代目 美佐雄 さん (左)〕
〔4代目 奏志 さん (右)〕

4代にわたり苗木城内の石垣整備事業に携わり、数々の文化財の石垣修復や講習会の講師として全国各地で活躍中



地域のシンボルを守る

苗木城の修復に携わり始めたのは昭和60年頃からです。地域のシンボルを守ることに携われていることを誇りに思います。

文化財は、さまざまな時代設定や、使用されていた石の産地など、記述や写真をもとに修復します。姫路城や熊本城、名古屋城など、数々の平山城や山城の石垣修復を行ってきましたが、苗木城は山城の中でも、とても過酷な現場です。その分、どうすれば効率よく作業ができるか、考える力が養われ、「これができるればどの城でもできる」と自信につながっています。



苗木城跡での作業の様子

理想の形を求めて

民間の仕事では、理想どおりに1から石積みができます。一方で、文化財の石積みは、私から見れば悪いところがたくさんあっても、「戻す」のが原則。そのなかで、単に戻すのではなく、どうして崩れそうなのか、崩れたのか、原因を突き止め、私が理想とする石垣に近づける過程で、補修・補強をします。その経験の積み重ねが今につながっています。

今あるものをしっかりと管理して、後世に残してほしいです。



苗木城の石垣修復に使う岩のストック

守り 伝える 地域の誇り

interview

左から
苗木地域まちづくり推進協議会
顧問 杉山 直己 さん
苗木城跡・苗木遠山史料館友の会
会長 近藤 信幸 さん
苗木城跡案内ボランティアの会
会長 曾我 秀夫 さん



観光地化への歩み

杉山さん 平成26年、行政の働きかけで、「苗木城跡を核とした観光地化推進協議会」を立ち上げました。苗木城跡の特徴である「巨岩」を生かすため、雑木の伐採や土産物の開発、「苗木草刈り隊」を発足し、環境整備に取り組んできました。

近藤さん 友の会は、苗木遠山史料館の運営サポートとして、学習会やイベントの協力、城山の見回り・清掃などを行なっています。曾我さん 友の会が行なっていたガイドの要望が増えてきたことをきっかけに、平成27年にボランティアガイドの会を立ち上げました。令和7年度では、バス90台、約1800人を受け入れました。全国から訪れる観光客のおもてなしをしています。



築城500年のその先へ

杉山さん 平成30年に地域住民へアンケートを実施した結果、「苗木城跡を知らない、苗木城跡に興味がない」人が7割以上でした。そこで、奇岩めぐりや苗木城まつりを企画し、地域の宝に対する愛着と誇りを醸成してきました。また、岐阜の宝ものに認定された苗木城跡でもあり、行政の動きに協力していきたいと思っています。これからも、未来の世代に誇れる財産として守り伝えていきます。

近藤さん 苗木城跡を守り、多くの方に知ってもらうことは、この地域そのものを守っていくことになりそうです。今後も活動を続けながら、仲間や後継者を増やしていきたいと思っています。また、この機会にぜひ苗木城跡にお出かけいただき、歴史の重みに触れて、感じてもらいたいです。

曾我さん まだまだ苗木城跡の認知度は高くないと思いますが、観光客の方からは高い評価をいただいています。実際に訪れていただき、魅力を知ってもらい、また来たいと思ってもらえるよう、今後おもてなしの役割を果たしていきたいと思っています。

殿が待ちわびた名酒ーとのまちー

恵那醸造は、中津川市福岡の山間部にある蔵元で、遠山家に献上していたと伝わる「殿待」という地酒を造っていました。平成29年、苗木城跡の新たな名産にできないかと、地元の方から提案をいただき、地元産の酒米にこだわった特別純米酒として一新しました。ラベルには大正10年の写真をもとに、苗木城の伝説を取り入れたデザインをあしらっています。「とのまち」とともに、苗木城の物語を楽しんでもらえたらうれしいです。



恵那醸造(株) 代表取締役
長瀬 裕彦 さん (右上)

苗木城の礎、苗木花崗岩を知ろうー鉱物博物館ー

苗木城を支えた苗木花崗岩は、石材（蛭川みかげ石）として利用されるとともに、水晶・トパーズなど、さまざまな鉱物を産出します。苗木城内の巨岩にも水晶などができた晶洞がいくつか見られます。

鉱物博物館では、その成り立ちや産出鉱物を紹介しています。蛭川みかげ石を著名にした「さび石」を取り上げた企画展も開催中です。



入館料 330円、団体 (10人以上) 270円
※中学生以下は無料

開館時間 9時30分～17時
※入館は16時30分まで

休館日 毎週㊫ (祝日の場合は翌平日)、年末年始
問 ☎67-2110

巨岩と石垣の要塞 苗木城跡をめぐる

巨岩と石垣が織りなす「苗木城跡」。麓の苗木遠山史料館で貴重な絵図や復元模型を見てから登城すれば、そのすごさがより深く実感できます。ぜひ両方を巡り、歴史をご体感ください。



苗木遠山史料館
浅井 直紀 館長



苗木遠山史料館

入館料 330円、団体（10人以上） 270円

※中学生以下は無料

開館時間 9時30分～17時

※入館は16時30分まで

休館日 毎週㊿（祝日の場合は翌平日）、年末年始
問 ☎66-8181

ウォーキングルートガイド (中津川駅→苗木城跡)

四十八曲がりルート：約3.5km 徒歩約1時間
飛騨街道ルート：約4.5km 徒歩約1時間10分

旧北恵那鉄道上地橋梁跡

1978年に廃線となった北恵那鉄道の廃線跡。美しい石積みの橋脚と鉄橋が目の前に現れ、今なお力強い佇まいです。



四十八曲がり

本来は正門にあたる道で、大名の参勤交代にも利用されました。



飛騨街道

中山道から木曾川を越えて、飛騨高山へ向かう脇街道。道中では「弁慶岩」や「おばけ岩」などの奇岩も楽しめます。



苗木城復元模型



岩山という地形を生かすためのさまざまな工夫を見ることができます。

伝風吹門



苗木城の唯一現存する建築物である風吹門と伝わる門の柱と門扉を展示しています。



馬洗岩
うまいわ

この岩の上に馬を乗せ、米で馬を洗い、水が豊富であるかのように敵を欺いたことから名付けられたといわれています。



大矢倉跡

3階建ての大きな矢倉で、御鳩小屋とも呼ばれていました。巨岩を抱え込むように積まれた石垣は圧巻です。



足軽長屋跡
二の丸

足軽長屋跡から二の丸へ向かう道中では、年代によって異なる技法で積まれた石垣を見ることができます。



足軽長屋跡

A1駐車場から城内へ入ってすぐにある足軽長屋跡からは、天守跡と恵那山を同時に見ることができます。

10月4日(日) 苗木城築城500年記念 秋イベント

苗木城跡で開催される「苗木城まつり」では、武将隊や鉄砲隊の演武、マルシェ、さまざまな体験イベントを開催予定！また、中心市街地では、苗木城初代藩主を主役とした「遠山友政公 武者行列」を行う予定です。イベント詳細は、今後、市ホームページなどでお知らせします。



散策道を整備しました

問 観光課 (☎内線4274)

既存の散策ルートを生かしなが、階段設置などの整備やツツジの植栽、苗木城跡を望む展望デッキを2カ所整備しました。これまで以上に、「歩きながら楽しむ苗木城跡」を体験いただけます。





短編小説に綴った 過酷な労働環境

落合ダムのそばにある公園の片隅には、小説「セメント樽の中の手紙」で有名なプロレタリア作家 葉山嘉樹（1894-1945）の文学碑があります。葉山は、落合ダム建設工事で労働者として従事するなか、その過酷な体験をもとにこの小説を書きました。その小説は、発電所の工事現場で働く男性が、セメント樽の中からある女性からの一通の手紙を見つるところから始まります。手紙は、セメント工場で破砕機に巻き込まれた恋人の悲惨な事故と、労働者の悲痛な叫びが綴られたものでした。労働の過酷さや、貧しさにあえぐ労働者の現実をリアルに伝える名作です。

文学碑には、「馬鹿にはされるが真実を語るものももっと多くなるといい。」と刻まれています。

落合ダム・発電所 100年記念イベント

落合ダム・発電所100年記念事業実行委員会では、建設から100年を機会に、落合ダム・発電所の歴史を振り返り、さまざまな催しを企画しています。皆様のご参加をお待ちしています。



落合ダム・発電所100年記念事業
実行委員会 委員長 水野 克司 さん

9月

村瀬橋の行灯飾りと イルミネーション

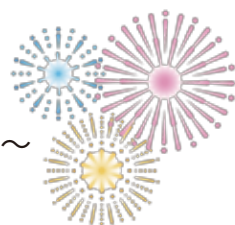
こどもたちが作る行灯と、イルミネーションで村瀬橋を飾ります。

とき 11日(金)、12日(土) 17時30分～
ところ 村瀬橋



記念花火

とき 12日(土) 19時～
ところ 落合川河川



10月

記念写真展

地域の皆さんからお寄せいただいた落合ダム・発電所建設当時の写真や資料などの展示のほか、パネルを掲示します。

とき 24日(土)～30日(金) 9時～16時
ところ 落合公民館

記念ウォーキング 参加賞あり

とき 25日(日) 9時～12時※雨天中止
受付・発着 落合公民館
コース 約3.3km 対象 小学生以上

記念講演会

前半は、関西電力(株)職員の方による落合ダムの歴史解説。後半は、落合ダムを舞台に書かれた小説「セメント樽の中の手紙」を紹介します。

とき 25日(日) 13時30分～15時
ところ 落合公民館
対象 小学生以上

関西のエネルギーを 支えて100年

落合ダム・発電所

電力王 福沢 桃介



福沢桃介（旧姓：岩崎）は、1868年8月、埼玉県で生まれました。16歳の時に上京し、福沢諭吉が創立した慶応義塾大学に入学。卒業後、諭吉の婿養子となり、福沢家に入りました。

日露戦争後の好況期に株式投資で財を成した桃介は、さまざまな事業に投資。最終的に落ち着いたのが電気事業でした。

数々の電力会社の社長を務め、木曾川の水力開発を主導。落合ダム・発電所をはじめ、賤母発電所や大桑発電所、大井ダム・発電所などを手掛け、関西方面へ送電。この功績から「電気王」「電力王」と呼ばれています。

この地を選んだ理由

桃介がこの地に発電所を建設した理由は、木曾川は落差が大きく、水量が豊かで、水力発電に極めて適し

た地形だったためです。

また、送電先に選んだ関西地方は、当時、深刻な供給電力不足に陥っており、莫大な電力需要が見込まれました。そこで、桃介率いる大同電力は、長距離送電線を整備し、木曾川で生み出した電力を関西へ供給することで、日本の近代化と産業発展に貢献しました。

